

(別添 1)

【滑川市】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	2,424	2,392	2,373	2,369	2,347
② 予備機を含む 整備上限台数	2,787	2,750	241	237	212
③ 整備台数 (予備機除く)	0	2,392	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	2,392	0	0	0
⑤ 累積更新率	0.0%	100%	100.8%	100.9%	101.9%
⑥ 予備機整備台数	0	95	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	95	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	3.8%	0%	0%	0%

※令和 7 年度～令和 10 年度は推定値

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和 2 年度に整備した児童生徒用端末 2,437 台について、端末の使用による本体の損耗等に伴い故障や不具合が見られるようになり、日常的な利活用に支障が出ている状況にあるため、令和 7 年度に更新を行う。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

更新対象端末：2,437 台

処分方法：令和 5 年 10 月 26 日付け事務連絡「GIGA スクール構想の下で整備された 1 人 1 台端末等の適切な処分（再使用又は再資源化）等について（文科省・経産省・環境省）」に基づき、適切に処分を実施する。

(別添 2)

【滑川市】
ネットワーク整備計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合	0 %	100%	100%	100%	100%
アセスメントの実施有無	有	無	無	無	無
(アセスメントにより明らかとなった課題) 現在、滑川市内の小中学校におけるネットワーク回線は、各学校から市教育センターに集約され、1本の回線で外部ネットワーク(固定グローバル IP アドレスは1つ)に接続する、という集約接続型をとっている。 調査の結果、現在の回線接続状態(回線契約内容)では十分なネットワーク速度を確保することは難しく、速度の改善を図るには、回線本数の増加及び、固定グローバル IP アドレスの増加による回線負荷の分散が必要であることが判明した。 (課題解決の方法・予定) ・ 外部ネットワークに接続する回線本数を、1本から2本に増やす。 ・ 回線1本あたりの固定グローバル IP アドレスを、1つから8つに増やす。					

(別添3)

【滑川市】
校務ＤＸ計画

滑川市では、教職員の業務負担軽減のために、ＩＣＴを活用して校務の効率化を図り、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保することで、きめ細かで質の高い教育の実現を目指しており、以下の項目を重点的に推進することで、更なる校務ＤＸ化を図ることとする。

(1) 次世代の統合型校務支援システムの導入

現在、校務事務は滑川市独自のシステムを用いて実施しているが、機能が十分でないほか、個々のシステムが連携していないため二重の入力作業や確認作業が必要になるなど、事務処理に多大な時間を要している。

令和７年度中に校務機能と、出欠・成績管理、保健管理機能などが連携するクラウド型の統合型校務支援システムを導入することで、教員の事務効率改善や、教員間の円滑な情報共有を行い、教員が児童生徒と向き合う時間を確保することを図る。

(2) 学校用グループウェアの導入

令和６年度より、教職員の働き方改革や学校の業務改善のため、小中学校や教育委員会・教育センターで情報共有や、出退勤管理を行うことのできる学校用グループウェアを導入しており、学校内外の行事予定の共有や、出退勤管理のデジタル化により、教職員の業務の効率化を図っている。

今後も継続して使用するとともに、休暇申請などの教職員が実施する事務手続きをデジタル化することで、更なる業務の効率化を図る。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの策定

滑川市教育委員会では「滑川市情報セキュリティポリシー」を準用して運用しており、教育のＤＸ化が進展する中で、教育委員会及び学校に必要とされるセキュリティ対策は高度化し、ますます重要度を増している。

今後、校務ＤＸ化を推進していく上では、学校教育現場に合ったセキュリティ対策基準を整備する必要があることから、滑川市教育情報セキュリティポリシーを新たに策定する。

(4) ＩＣＴ支援員の配置

滑川市では、各学校で教職員がＩＣＴを活用する際に、機器の準備や操作などを支援する人員であるＩＣＴ支援員を、市内で２名配置しており、様々な校務に関連するシステムの補助・助言や、情報機器を活用する授業方法、情報教育の方法への助言を行っている。今後もＩＣＴ支援員を継続して配置し、更なる校務ＤＸ化の推進につなげたい。

(別添 4)

【滑川市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

各教科等の指導で1人1台端末を始めとするICT技術を活用することで、児童生徒の学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業による「主体的・対話的で深い学び」を実現可能にし、それによって、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びや、創造性を育む学びの姿を目指す。

2. GIGA第1期の総括

滑川市ではGIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に市内全児童生徒分の計2,437台のタブレット端末を整備し、併せて各学校における通信ネットワーク環境を整備した。また、市内にICT支援員2名を配置し、授業支援、校務支援、環境整備、校内研修等のサポートを行ってきた。

タブレット学習を推進することで、これまでのプリント配布をデータ配布するなど学習の効率化、タブレットドリルで意欲的に学習に取り組むなど自主的な学習の促進、生徒自身がわからないところを積極的に調べるようになり、学習の幅が広がるようになった、といった効果があった。

一方で、タブレット端末本体の起動に時間を要したり、本体の処理速度やネットワーク速度が遅いなどといったことから、授業内の指導時間が短くなるといった面も見受けられ、GIGA第2期では、ハード面の部分を改善していく必要があると考える。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用については、「学びの改革」「心とからだのケア」「学校と家庭との連絡調整」を主な項目として活用していくこととしている。

「学びの改革」

- ・教員による教材の提示…画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用
- ・発表や話し合い …グループや学級全体での発表・話し合い
- ・学校の壁を越えた学習…遠隔地や海外の学校等との交流授業 など

「心とからだのケア」

- ・子供の心の様子（健康状態の記入）の把握・教育相談 など

「学校と家庭との連絡調整」

- ・アンケート集計や学級だより等のお知らせのデジタル化 など